

平成26年7月臨時教育委員会会議録

日 時	平成26年7月31日(木) 午後1時30分～午後3時56分
場 所	秦野市役所本庁舎4階議会第1会議室
出席委員	委員長 望月 國男 委員長職務代理者 高橋 照江 委員 飯田 文宏 委員 内田 晴久 教育長 内田 賢司
欠席委員	なし
委員以外 の出席者	教育部長 水野 和成 教育指導課指導主事 横山 潔 教育総務課長 山口 均 教育指導課指導主事 進藤 大輔 教育指導課長兼 教育総務課課長補佐(庶務担当) 鈴木 利昭 教育研究所長 柏木 荘一 教育総務課庶務班主任主事 小泉 祐介
傍聴者	11名
会議次第	<p style="text-align: center;">7月臨時教育委員会会議</p> <p>日 時 平成26年7月31日(木) 午後1時30分</p> <p>場 所 秦野市役所本庁舎4階議会第1会議室</p> <p style="text-align: center;">次 第</p> <p>1 開 会</p> <p>2 会議録の承認</p> <p>3 議 案</p> <p>(1) 議案第8号 平成27年度に使用する小学校の教科用図書の採択について</p> <p>(2) 議案第9号 平成27年度に使用する中学校の教科用図書の採択について</p> <p>(3) 議案第10号 平成27年度に使用する学校教育法附則第9条による教科用図書の採択について</p> <p>4 閉 会</p>
会議資料	別紙のとおり

望月委員長	<p>それでは、臨時教育委員会会議を開催いたします。 お手元の会議次第に沿って進めさせていただきます。 まず、会議録の承認について、ご意見、ご質問等がございましたら、お願いいたします。</p> <p>—特になし—</p>
望月委員長	<p>それでは、ないようですので、会議録を承認します。 次に、教科用図書の採択に係る議事に進みます。</p> <p>今回の会議は、議案第8号「平成27年度に使用する小学校の教科用図書の採択について」、議案第9号「平成27年度に使用する中学校の教科用図書の採択について」及び議案第10号「平成27年度に使用する学校教育法附則第9条による教科用図書の採択について」の3本です。</p> <p>まず、議案第8号「平成27年度に使用する小学校の教科用図書の採択について」、提案理由の説明を教育指導課長からお願いいたします。</p>
教育指導課長	<p>義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第1項の規定により、平成27年度に使用する小学校の教科用図書を採択するため、提案するものであります。</p> <p>以上です。</p>
望月委員長	<p>採択に当たっては、まず、小学校で使用する教科用図書について、種目ごとに事務局より説明を行い、それを受けて教育委員で協議し、その後、今回は、初めて記名投票としましたので、その一番投票数が多かった1者を決定する、こういう方法で進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>—異議なし—</p>
望月委員長	<p>委員の皆様には既に教科書をよくごらんいただいておりますし、各教科について、既にそれぞれの委員は採択すべき教科書を決めておられるとは思いますが、事務局の説明を聞いた上で、意見交換、議論をしていただき、投票で決定したいと思います。</p> <p>なお、票が割れた場合は、最も多い得票でも過半数を超える3票までに至らなかった場合は、意見交換、議論をしていただき、再投票を行うことにしたいと思います。いかがでしょうか。</p> <p>—異議なし—</p>
望月委員長	<p>それでは、投票で決定することになりましたので、立会人を指名したいと思います。高橋教育委員長職務代理に立ち会いをお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>—異議なし—</p>
望月委員長	<p>それでは、高橋教育委員長職務代理に立ち会いをお願いいたし</p>

望月委員長

教育指導課長

ます。

また、全ての種目の記入が完了した時点で、第8号議案をお諮りし、そこで採決を行うことにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

—異議なし—

それでは、議事に入ります。

最初に、国語から審議いたします。

国語についてお願いします。国語は発行者が5者になります。教科用図書採択検討委員会からの主な意見ということでご報告させていただきます。

どの教科書も内容、構成等に工夫が凝らされている。俳句をどの教科書も扱っているが、光村図書で取り上げているものは子どもになじみの薄いものがあり、難しくないかと思う。東京書籍で取り上げている前田夕暮は、地域が生んだ偉大な先人として学ぶ機会として非常に興味があると思う。東京書籍は、「ひとつの花」という戦争体験を扱う教材をサブテキストとして扱っているが、教材を使って学級で話し合うことはとても重要なので、主教材として扱ったほうがよいと思う。三省堂の2分冊になっている構成は、授業のときに忘れてしまう児童がいると扱いにくいと思う。上下または1冊になっているほうが使いやすいのではないか。三省堂の既習・未習にかかわらずふりがなをつけて表記するのは、学年相当でない漢字に触れるチャンスであると思う。

以上でございます。

望月委員長

以上の説明であります。ただいまの説明についてご質問、ご意見等があればお願いいたします。

内田委員

まず、国語からということで、私なりの意見を述べさせていただきます。それぞれの会社の本を学年ごとに横に並べて1年生から6年生まで拝見させていただきました。

低学年に関しては、どの会社もそんなに大きな差はないのかなという気はいたしましたけれども、例えば1年生の下巻、三省堂は、鉛筆とか、たわしとか、サッカーボールができていく話があったり、2年生では、学校図書の「続き話を書こう」というのは、創造性を育む意味ではとてもいい教材かなという気がしています。

高学年になってきますと、それぞれいい点があるのかなと思っておりますが、特に3年生の光村図書、ここは秦野の小学生の教科書ということで、「里山は、未来の風景」という教材がとてもいい教材なのかなという感じがしています。そのほか、6年生の東

望月委員長
高橋委員

京書籍、「発展 自然エネルギー」とか、もちろん前田夕暮の短歌も出ているということで、いずれもいいのかなと思っています。秦野市の小学生ということであれば、光村図書がかなりいいのではないかと感じたりしています。もちろん、現場の先生方がどれを使いやすいのかというところもあろうかと思えますけれども、いずれもいい教科書かなと思っています。

ほかはいかがでしょうか。

私も、光村図書は、「季節の言葉」コーナーというのが大変いい企画だと思いました。6年生で短歌を学びますが、そこに、江戸時代の橘曙覧の短歌で、「たのしみは」で始まって何々のときというのが出ていますが、秦野でも前田夕暮子ども短歌大会に、これに倣って「たのしみは何々のとき」という短歌をつくった応募作品がたくさん出ています。子どもたちにも浸透しているのでいいかなと思いましたが、今回、東京書籍は巻末の付録の部分が大変充実していると思います。それと「国語のノートの作り方」というのが例示してありますが、子どもが学ぶ際、基礎・基本をしっかりと押さえていこうという意図がはっきりしていて、大変子どもたちにとっても参考になると思います。先ほども申しましたが、東京書籍の付録の部分が付録としておくのはもったいない。これをしっかりと教えていただきたいなというくらいの内容だと感じました。

望月委員長
教育長

ほかはどうでしょうか。

全体のものを見させていただいた中で、先ほど指導課長の報告の中にあつた三省堂の2分冊の件、確かに授業を進めている中で忘れてしまったとなると、もちろんどんなところでも上下巻という形が、少し気になった部分です。

それから、光村図書は今使用している教科書ですので、全体的に総合的に見てもバランスがとれているかなという印象を持っています。それはそれとして評価しますが、先ほど内田委員からもありましたが、東京書籍4年生の上巻の前田夕暮の短歌、秦野の生んだ歌人、前田夕暮は短歌祭も行っていますし、子どもたちにきちんとそういうことを伝えていきたいという思いの中で、あるいは先人のことを学ぶという点では考えるべき点ではないのかなと思います。そういう意味では大きな特徴の一つだと思っています。

それから、教育出版の2年の下巻の中に飛び出すページというものが設けられている。こういう方法もあるんだなということを感じました。

望月委員長
飯田委員

それともう一点は、4年生で「ごんぎつね」は全て扱っていませんが、挿絵というものにこれだけそれぞれに熱意があるのかと、こんなふうな印象を持ったところです。

以上です。

ほかにいかがでしょうか。

今回、保護者という立場で教科書の選択をさせていただきましたけど、さっき内田委員が言われたように、私自身としては、先生が使いやすい教科書、それが一番だと思っております。国語に関しましては、内田教育長がおっしゃったように、秦野の生んだ歌人の前田夕暮の短歌が掲載されています東京書籍は大変興味ある教科書だと思っております。

以上です。

望月委員長

それでは、私から、今回、5者読んでみたわけですが、どの教科書も、内容、構成等、大変工夫が凝らされているということが第一の印象です。

それから、他の教育委員も指摘されているように、郷土の生んだ歌人の前田夕暮の話がありました。前田夕暮の短歌大会が、従来は市内、それが県内に広がり、さらに全国に広がり、昨年度はアメリカやオーストラリアのほうからも応募があったということで、まさに国際的になってきている。そういう面では、郷土の前田夕暮を子どもたちに教えるといういい教材を扱っていると思いますが、総合的に見ますと、光村図書は、言葉に親しみを持たせるということで、「言葉の準備運動」とか、あるいは「いつも気をつけよう」という、これまで学んだことを振り返ることができるような工夫がされていてよいと思いました。さらに見通しを持って学年で取り組むことができるように、3年以上の分の最初のほうに「学習を見渡そう」ということがあったりしまして、クラスで学習する際の道しるべになっていていいかなと思ったわけでありませう。

追加でありますか。

—特になし—

望月委員長

それでは、よろしければ早速投票に移りたいと思いますが、投票に移ってもよろしいでしょうか。

—異議なし—

望月委員長

では、お願いします。

—投票—

教育指導課長

では、開票の結果をご報告させていただきます。

望月委員長、光村図書。高橋委員長職務代理、東京書籍。内田

望月委員長

委員、光村図書。飯田委員、東京書籍。内田教育長、東京書籍。
国語につきましては、東京書籍3、光村図書2。
以上でございます。

教育指導課長

それでは、開票の結果、小学校の国語につきましては、東京書籍に決定いたしました。

続いて、小学校の書写について審議を行います。事務局からの説明をお願いいたします。

書写の発行者は、6者になります。

書写については次のような意見が出されました。

教科書のサイズが同じでないのは子どもにとって扱いにくいのではないだろうか。東京書籍のワイド判は国語の教科書とのバランスを考えると扱いにくいと思う。三省堂は実用例が充実していると思う。何々を書くといった実生活を想定した学習展開の工夫はどの教科書にも見られると思う。国語の教科書とのかかわりを意識するべきではないか。同一出版者にするもののメリット、デメリットがあると思う。取り上げる文字なども異なってくるので同一出版者のほうがいいのではないか。書写ノートを使っていくときにも同じほうが利便性が高い。低学年は、教科書を広げ、直接教科書に書き込む。子どもの目線に合っており、実物大の図は魅力である。東京書籍の「自分の手をここに乗せてごらん」という扱い方は新しいし、低学年にはよいと思う。硬筆から入るか毛筆から入るかは授業展開として大きいと思う。現行は毛筆から入っているの、その教科書がよいと思う。東京書籍、教育出版は硬筆から、その他は毛筆から入っている。

以上でございます。

望月委員長

それでは、以上の説明ですが、ご意見、ご質問等があればお願いいたします。

内田委員

書写に関しても、いろいろと横に並べて拝見させていただきました。今、お話にありましたように、手を乗せられるというのがいいというご意見がありましたけれども、そういうのも確かにあるかなと思ひまして、見たところ、光村図書と東京図書と、あと日本文教図書も、ページをうまく広げれば手が乗せられるような絵がありました。

その中で、東京書籍、例えば毛筆のところ、
「トン」「スー」「ピタッ」というふうに、音と感覚的な記述があったりして、これは子どもたちにとっては、字の書き順、書き方の感覚を養うのにとてもいいのではないかと、そのように感じております。この辺も、毛筆と硬筆、どちらがいいかというのものもあるかもしれませ

望月委員長
飯田委員

んけれども、いずれにしろ、「トン」「スー」「ピタッ」という毛筆の感覚も硬筆にとっても役に立つのかなという気がしています。

以上です。

ほかにありますか。

書写に関しましては、どの教科書も、姿勢とか持ち方について表現が工夫されていると思っております。その中でも、東京書籍は、教科書を机に置いたときに、広げると、手の置き方や鉛筆の持ち方、そのものが実物大であらわされていて、とてもわかりやすく感じました。

以上です。

望月委員長
教育長

ほかにどうでしょうか。

先ほど報告の中に東京書籍のワイド判の話がありましたが、このサイズが使いやすいのかどうかという視点、意見の中にはそうしたこともあるようですけれども、実はほかの教科でもワイド判というのは使われています。低学年の場合に、重さの問題が考慮された上で全体構成がされているのか、そういう意味では一つの視点に当たるのかなと思いましたが、もう一点の国語との関連性ということも含めて考えるべき点もあると思っています。

望月委員長

ほかにどうでしょうか。

私は、教科書のサイズがばらばらというのは、子どもにとって非常に扱いにくいのではないだろうかと考えます。東京書籍のワイド判というのは、国語の教科書とのバランスを考えると少し扱いづらいかなと思います。光村図書のほうは、子どもが見通しを持って主体的に学習することができるように、4年生から6年生の初めに学習の進め方が示されて非常にいいかなと思います。また、「大切」の視点を設けて、文字を書くときのポイントを整理して示されているということは、教えるときにとても役に立つのではないかと、そんな感じを持ちます。

ほかにどうですか。

—特になし—

望月委員長

それでは、投票に移ってもよろしいですか。

—異議なし—

望月委員長

それでは、書写についての投票を行います。投票用紙の配付をしてください。

—投票—

教育指導課長

では、開票の結果を報告いたします。

望月委員長、光村図書。高橋委員長職務代理、東京書籍。内田

望月委員長

委員、東京書籍。飯田委員、東京書籍。内田教育長、東京書籍。
書写につきましては、東京書籍4票、光村図書1票。
以上でございます。

教育指導課長

それでは、開票の結果、小学校書写につきましては、東京書籍
に決定いたしました。

引き続きまして、小学校社会についての審議を行います。事務局
から説明をお願いいたします。

社会の発行者は4者になります。

検討委員会の主な意見といたしましては、東京書籍は、資料が
多いため本文が読みにくいように思う。それに対して光村図書は
本文がわかりやすく読みやすい。東京書籍は、内容が多く、いろ
いろと資料に触れることができるとよいと思う。教育出版は、社会
科の学習の学び方を、先生と子どもとともに学びながら授業を展
開していくのがよいと思う。学び方を学習することは大切である。
中学年の教科書は、できるだけ地元神奈川県を取り上げているも
のがよいと思う。教育出版、日本文教出版の3年、4年生の教科
書には防災教育が載せられていて、特に教育出版は3. 11を強
調し、下巻で大きく扱っている。1年生より理科や社会を学んで
いたころに比べると、現在の3年生は体験が減っていると思う。
ゆえに社会科と初めて出会う3年生はとても大切な時期である。
社会科とは何ぞや、どのような学びをしていけばよいか考えなが
らしっかり身につけていってほしい。教育出版は、3年生に社会
科の学び方と基礎・基本を載せている。また、東京書籍は資料等
が大きく見やすいが、2者の統計資料の項目に微妙に違いがある。
高学年になると、社会を学ぶ中でどちらの統計資料が現場の学習
に近いのか考えることが大切である。

以上でございます。

望月委員長

それでは、以上の説明につきまして、何かご意見、ご質問はご
ざいますか。

飯田委員

私は、光村図書は、神奈川県に関する資料が大変多く掲載され
ていると思いました。また、3年、4年には、秦野市の友好都市
のパサデナと坡州のことが書かれているということで、この辺、
大変興味がありました。

以上です。

望月委員長
教育長

ほかにどうでしょうか。

今、飯田委員からもお話がありましたが、地元を扱っているも
のという意味では光村図書もそうなのですが、教育出版も神奈川
県の扱いがあります。先ほど前田夕暮の話をしましたけれども、

そういう意味では、地元といいますか、神奈川県、そういう単位で扱っているもの、子どもたちに少なくともそうしたものを知らせていくことは必要ではないか。特に、教育出版の中に、県の浄水場に当たる場所を示す地図がついております。身近な資料として興味を持って取り組まれるのではないかと思います。

以上です。

望月委員長

私は、領土問題についてよく見ましたが、大体どこの会社も似たような表記という感じを持ちました。特に韓国関係のことについてはどうかと見ましたが、渡来人とか、「文禄・慶長の役」という表現は使っていませんが、いわゆる文禄・慶長の役とか、通信使あるいは朝鮮の併合というのは扱っています。教育出版は、7世紀あたりの朝鮮半島の様子を知るために白村江の戦いを扱っています。朝鮮半島の最初のころのことを理解するのに白村江の戦いは役に立つのではないかと思います。

それから、初めて社会科を学習する3年生に向けて、社会科の学び方について説明しているのではないかと思います。

ほかにどうでしょうか。

内田委員

先ほど教育長がお話しされていましたが、特に低学年、3年生、4年生のところで地元を扱っているということです。このところは、成長段階の中で、小さいときは身近な地域に関心が強いと思います。そういった意味では、教育出版あるいは光村図書が、神奈川県を教材に扱って、そこからスタートしているところがあるかと思います。その辺がいいのではないかと思います。あと、教育出版は、6年生の下巻で4つの地域の調べ学習、これはとてもいい教材ではないかなと感じております。

以上です。

望月委員長

ほかにどうですか。

—特になし—

望月委員長

それでは、社会について投票を行います。投票に移ってもよろしいでしょうか。

—異議なし—

望月委員長

投票用紙の配付をお願いします。

—投票—

教育指導課長

では、開票の結果を報告します。

望月委員長、教育出版。高橋委員長職務代理、教育出版。内田委員、教育出版。飯田委員、光村図書。内田教育長、教育出版。

社会科につきましては、教育出版4票、光村図書1票。

以上でございます。

望月委員長

それでは、社会科につきましては、ただいまの説明のとおり、教育出版4票、光村図書1票。よって、小学校社会科につきましては、教育出版に決定いたしました。

教育指導課長

続きまして、小学校の地図について審議を行います。事務局からの説明をお願いいたします。

地図の発行者は2者です。

主な意見といたしましては、東京書籍は、文字や表が大きくなった分、少し情報量が減った印象も受けないではないが、見やすくなったと思う。これまでもそうだが、社会と地図で発行者が違って指導しにくいことはないと思う。これまで使用してきたので見なれているのは帝国書院であるが、初めて使用する子どもはどちらでも問題なく使用できると思う。

以上です。

望月委員長

地図は、東京書籍と帝国書院、2者ですが、ご意見を伺いたいと思います。

内田委員

2つからの選択ということですが、帝国書院の地図は、私自身が見ても懐かしさを感じるような色彩とといいますか、編集かなと思っていますが、ただ、首都圏の拡大地図のページを見ると、残念なことに神奈川県が小田原から西が切れてしまっていて、東京書籍のほうは神奈川県が首都圏の拡大版のところではきれいに載っているということで、やはり地元の地域から意識していくということを考えると、神奈川県がきれいに載っている地図がいいのかなと感じております。あと、統計データも、東京書籍のほうがいろいろと色遣いもあって見やすいかと思います。

以上です。

望月委員長

ほかにどうでしょうか。

飯田委員

帝国書院の地図ですが、日本の固有の領土である北方領土、竹島、尖閣諸島について、説明を加えた写真が地図に載せてあり、日本のどこにあってどんな島かというのが非常にわかりやすい感じがしました。

以上です。

教育長

先ほど内田委員からも話がありましたが、両方の地図を見ますと、見なれているというのは確かに帝国書院の地図が見なれている。先ほど指摘があったように、残念なのは、神奈川県が小田原から西部が切れている。そういう意味では、神奈川県としてのそういうものが整理されるといいなと思います。

ただ、子どもたちが手にとって開いたときに、日本が繰り返し目に入るようになっている工夫も別にあるのかなと思います。そ

望月委員長

れと、都道府県の有名なものとの関連づけ、そうした資料が掲載されている。そうしたことも評価すべきではないかと思います。日本を中心にして学習する小学生という意味で考えますと、帝国書院がやはり使いやすさがあるのかなと思います。

それと、今までも、社会科との連動性、関連ということで考えると、教科書とセットということが必ず出てきますが、地図に関してはそうしたものは考えなくてもいいのではないのかなと、現時点では思っています。

望月委員長

帝国書院のほうはグラフとか表などの資料が多くて、調べ学習には適しているという感想を持ちましたが、ほかにいかがですか。

—特になし—

望月委員長

もしよろしければ、投票に移りたいと思いますが、投票に移ってよろしいでしょうか。

—異議なし—

教育指導課長

では、地図について投票に入ります。用紙の配付をお願いします。

—投票—

それでは、開票の結果を報告いたします。

望月委員長、帝国書院。高橋委員長職務代理、帝国書院。内田委員、東京書籍。飯田委員、帝国書院。内田教育長、帝国書院。

地図につきましては、帝国書院4票、東京書籍1票。

以上でございます。

望月委員長

それでは、開票の結果、小学校地図につきましては、帝国書院に決定いたしました。

続きまして、小学校算数について審議を行います。事務局からの説明をお願いいたします。

教育指導課長

算数の発行者は6者になります。

主な意見といたしましては、啓林館は、「ICT教育、国際理解教育にも配慮している」とあるが、6年生にガウスやパスカルといった世界の数学者などが紹介されている。東京書籍、「マイノートをつくろう」のノート提出の仕方はよいと思う。日本文教出版は、巻末にまとめ方を示したガイドがあり、わかりやすいと思う。算数は一番つまずきやすい教科だと思うので、振り返りやすいことが大事だと思う。小中の連携の視点で、中学校と同じ出版者を使ったほうがよいと思う。啓林館の「算数の実験室」には、「実感を伴った理解」とあり、体積の学習のところを見ると、実感を伴った理解の解説がわかりやすいと思う。学習で基本を押さえた後、しっかりと定着させるために練習問題を解くことは算数

には大事なことだと思う。練習問題の量は、日本文教出版と啓林館は多めになっていると思う。定着という意味で言うと、算数に興味・関心を持たせるような身の回りに関するもので表現することは大事だと思う。啓林館の「算数卒業」で中学校の紹介をしている。このような扱いをしてきているものがよいと思う。

以上です。

望月委員長

以上の説明であります。ご意見、ご質問等があればお願いいたします。

高橋委員

やはり学年で1冊の教科書のほうが、学年の最後で振り返った場合に便利じゃないかと考えますが、小学校低学年の場合は重くなってしまうとか、身体的なこともありますので、分冊になっているのが多いと思います。啓林館も高学年では1冊になっています。そして、どの教科書も中学校の数学との接続というのがよく考えられていると思います。啓林館は、最後の「数学へのとびら」で、中学校の接続について意識したつくりになっているんですが、その前に、「なぜ算数を学ぶの」というところがありまして、算数で学んだことを実際の生活に役立てていけるように、基礎となる算数的知識とか技能の習得が編集方針の一つであると書いてありましたので、これは大変いいことだなと感じました。

ほかにどうでしょうか。

望月委員長
飯田委員

啓林館の5年に「コンピューターを使う」という項目がありまして、これは検討委員会の中でも出されていますが、ICT教育を意識されているのかなと感じました。また、学習を身につけるには、確実に子どもがわかるように練習問題を多く解くことが大切だと思っております。中でも、これも検討委員会の中でもありましたけど、日本文教出版と啓林館は、大変多く練習問題が出されているのかなと思いました。そしてまた、「保護者の方へ」というところが私、目につきました。それを見ると、例えば、2年生では九九をやっています、4年生では小数掛ける整数、5年では小数掛ける小数というのが出ていたので、保護者としても、今、子どもがどんなことを算数で習っているのかよくわかっていいと思いました。

以上です。

望月委員長
内田委員

ほかにどうでしょうか。

どの会社も、算数に関しては差を見ることはなかなか難しいのかなという気はしましたが、啓林館は、図や絵が少な目ですけれども、その分、数字になれることができるのかなと感じました。あとは、最近よく言われますけれども、大学生でも分数の足し算・

望月委員長
教育長

引き算がわからないなんていうこともあります。そういった基本的なところを考えると、学校図書や啓林館あるいは日本文教出版の教材がわかりやすいかなと感じました。

ほかにどうでしょうか。

最初に高橋委員からもお話があった1冊か分冊かということですが、大日本図書は全学年が1冊になっています。日本文教出版が全学年2冊で構成されている。重さの問題を考えたときは、やはり低学年は分冊がいいだろうと思いますが、高学年になるに従って必ずもとのところの基礎・基本を振り返るというのが出てくるわけで、そうした意味では、高学年が1冊になっているという、例えば東京書籍は6年生だけが1冊という構成です。5年生、6年生が1冊になっているのは啓林館がそうですし、そうした配慮がされているのだろうと思っています。

以上です。

望月委員長

私は、東京書籍は、「マイノートをつくろう」ということで、ノートの提出の仕方はよいと思いますが、総合的に見ると、啓林館は、例えば本市で推進している幼小中の一貫教育という視点で見ると、特に幼保から小学校1年生に入る場合に、新入生が取り組みやすいように、1年の最初では楽しい物語で展開しているのではないかという感じを持ちました。

それから、復習という段階、準備、単元、練習、そういう学習過程で既習事項を確認しながらスパイラルな学習ができるようになっていく。これは算数だけじゃなくて、非常に大事ではないかと思いますが、啓林館はその辺についても十分配慮しているという感じを持ちました。

ほかにどうですか。

—特になし—

望月委員長

それでは、算数について投票を行います。用紙の配付をお願いします。

—投票—

教育指導課長

では、開票結果を報告します。

望月委員長、啓林館。高橋委員長職務代理、啓林館。内田委員、啓林館。飯田委員、啓林館。内田教育長、啓林館。

算数につきましては、啓林館5票。

以上です。

望月委員長

それでは、開票の結果、啓林館が5票ということで、小学校算数につきましては、啓林館に決定いたしました。

続きまして、小学校理科について審議を行います。事務局から

教育指導課長

説明をお願いいたします。

理科の発行者は6者になります。そのうち、信州教育出版社からは見本本が本市及び近隣市町には届きませんでした。

検討委員会で出た主な意見といたしましては、教育出版の人体図がリアルで、少しドキッとするので気になった。啓林館は別冊と2冊あるが、別冊を理科ノートとして考えるとよいと思う。啓林館の別冊のノートは書く力をつけるに実用的だと思う。啓林館は情報量が豊富で、「流れる水のはたらき」に掲載されている資料はおもしろいと思う。問題解決の中では、結果が出ればよいというものではなく、その結果から何が考えられるか考察する科学的な思考力をつけるということでは、啓林館はよく考えられていると思う。実験したこと、観察したことを一つ一つ自分でまとめていくことで、言語活動としての文章表現が身についていく。地元地域のことが教科書に載っていることは、子どもにとっても保護者にとっても重要なことではないかと思う。

以上です。

望月委員長
教育長

以上の説明ですが、ご意見、ご質問があればお願いいたします。

まず、先ほど報告があった中の、私もこれを見て驚きましたが、教育出版の6年生の人体図、人の体の中の様子というのが表と裏という表記でなっていました。イラストが、非常にリアルというか、少し気になりました。子どもたちがどう捉えるか。手書きの絵ではないので、きちんと正確なものを教えていくことは必要だということですが、そういう扱いなのだろうとは思いますが、少し気になったところです。

報道で長崎の事件のことも言っていましたが、警察での供述で、子どもころから人を殺してみたかったとか、あるいは猫の解剖をして人間も解剖したくなったと供述しているということを知りましたけれども、実はその映像を思い出したようなことがあります。みんなそれぞれの教科書が扱っていますが、写真ではもちろんありませんけれども、教育出版が一番リアルでした。

あと1点、これもまた自分の立場で地元のということですが、啓林館の5年生で、市役所の前の水無川、ちょうど本町中学校の前の魚道が写真で載っております。前回の教科書でも掲載されていました。地元の写真があるということで、そうしたことに對する子どもの意識も高まればなど。ぜひ一回見についてみよう、こんなふうにするのではないかなと思ひまして、評価すべき点だと思ひています。

望月委員長

ほかにどうでしょうか。

高橋委員

私は、まず、学校図書の表紙が大変すばらしいなと感じました。上に科学者の写真が載っていて、その下に、生物とか、探査機「はやぶさ」とか、潜水調査船の「しんかい」が載っていますが、科学者の名前は伏されています。その答えが裏表紙に載っていて、これは何だろうと子どもたちに疑問を起こさせて、自分で調べてみようという科学する心を示しているのではないかと思いました。

それと、表紙をあけますと詩が載っています。風とか水とか土、空、海というふうに、大自然とのかかわり、その大自然をしっかりと観察しようという意図があるのかなと感じました。

学校図書は、理科の本をつくっている際に、自然と科学が好きになる教科書を目指していると書いてありましたので、私も小学校のときにこういう理科の本と出会ったら、理科好きになっていたかもしれないなという感じを受けました。

以上です。

望月委員長
内田委員

ほかにどうでしょうか。

私も、今、高橋委員がおっしゃられたように、学校図書は非常にいい印象を受けました。

学年別に見ていきますと、3年生、4年生は、学校図書と東京書籍、生物観察のところの写真とか記述がいいかなと思いました。あと、物づくりなんかのところがあって、子どもたちにとってはとても大事なかなという気がします。

それから、5年生ですと、教育出版は化学が少し物足りなさを感じます。6年生では、学校図書は、特に地学系の写真がいいとか、化学の溶液の記述のところもいい教材になっているのではないかと思います。表紙のデザインとか、科学者の様子とか言葉も載っていていいと思います。

あと、啓林館ですと、ワークシートが最後のほうに出ていますが、現場の先生方がこれをどういうふうに使われるのかが少し気になった次第です。全体的にはそんな感想を持っています。

望月委員長
飯田委員

ほかにどうでしょうか。

私は、啓林館の別冊の「わくわく理科プラス」、検討委員会の中でも意見が出されていますが、2冊あると、別冊をノートとして使えたり、また、観察の実験の準備や結果などを考えたりする際に大変役立つのではないかと思っています。また、教科書の最後に、これも「保護者の方へ」というのが出ていまして、これを読むと、理科の魅力などを感じることができて、親と子どもと一緒に理科というものを考えることができるのではないかなと思います。

望月委員長

ました。
以上です。
ほかにどうでしょうか。

望月委員長

—特になし—
それでは、投票に移りたいと思いますが、投票に移ってよろしいでしょうか。
—異議なし—

望月委員長

それでは、理科について投票を行います。用紙の配付をお願いします。
—投票—

教育指導課長

開票の結果を報告します。
望月委員長、啓林館。高橋委員長職務代理、学校図書。内田委員、学校図書。飯田委員、啓林館。内田教育長、啓林館。
理科につきましては、啓林館3票、学校図書2票。
以上です。

望月委員長

それでは、啓林館が3票、学校図書が2票ということです。したがって、開票の結果、小学校理科につきましては、啓林館に決定いたしました。

教育指導課長

続いて、小学校生活科について入ります。事務局からの説明をお願いいたします。

生活科の発行者は8者です。そのうち、信州教育出版社からは見本本が本市及び近隣市町には届きませんでした。

検討委員会での主な意見は次のとおりです。

光村図書は、写真が多くてわかりやすそうに見えるが、教える側としては難しいのではないかと思う。指導者の力量の差が出ると思う。学校図書は、写真が多くて説明が少ないと思う。啓林館は、理科のような写真が多く、理科の教科書としてはよいと思う。東京書籍は、生活科として盛り込まれている内容のバランスがよいと思う。出版者ごとの特徴が出ていると思う。そういう中でバランスを考えると、東京書籍がよいと思う。東京書籍は、幼稚園と小学校との接続を考えて1年生の導入が工夫されている。

以上でございます。

望月委員長

以上の説明ですが、ご意見、ご質問があればお願いいたします。

飯田委員

検討委員会で作されている内容で、東京書籍がよいというものもありますけど、私も、東京書籍は、活動するとき安全に気をつけてマナーができるようにというように、ところどころに「やくそく」という欄が出ていまして、その欄が、子ども自身が考え、子ども自身にわかってもらうように工夫がされているのではない

望月委員長
教育長

かと思っております。

以上です。

ほかにどうでしょうか。

今の報告の中にもありましたが、東京書籍は、生活科として大変バランスがいいと思います。例えば「ポケット図鑑」という、子どもたちが主体的に活動できるように体験活動を支える資料がついています。全体を見て、それぞれの特徴がありますが、特に調査員の回答の中で直接聞いた中に、東京書籍については、どのページを見ても全て意図を持って構成されています。私も見て確かにそれは思いましたが、もう少し言えば、無駄なページがないと思えました。こまかな対応ができる、あるいは写真についても意味があるということで、そうした評価は確かだと思えました。

望月委員長
高橋委員

ほかにどうでしょうか。

今、教育長が言われましたけれど、調査員の先生が絶対的信頼を置いているという感じを受けましたので、やはり東京書籍がいいかなと思うんです。見ていて、本当に考えてつくられている。子どもの気づきが生まれるような編集の仕方になっていると感じました。

以上です。

望月委員長

ほかにどうですか。確かに東京書籍は、生活科として盛り込まれている内容はバランスがとれている印象がありました。

教育長

取り扱いが大変うまいとつくづく思います。

望月委員長

ほかにどうですか。

内田委員

東京書籍は後ろにポケット図鑑がついているのが特色ですね。

望月委員長

では、生活科について投票を行いたいと思いますが、用紙の配付をお願いします。

—投票—

教育指導課長

では、開票の結果を報告します。

望月委員長、東京書籍。高橋委員長職務代理、東京書籍。内田委員、東京書籍。飯田委員、東京書籍。内田教育長、東京書籍。

生活につきましては、東京書籍5票。

以上です。

望月委員長

それでは、開票の結果、小学校生活科につきましては、東京書籍5票ということで、東京書籍に決定いたしました。

ここで暫時休憩いたします。

—休憩—

望月委員長

再開いたします。

引き続きまして、小学校音楽について審議を行います。事務局

教育指導課長

から説明をお願いいたします。

では、よろしく申し上げます。

音楽の発行者は2者になります。

検討委員会での主な意見は次のとおりです。

子どもが音楽に興味を持つことができるような教科書がよいと思う。音楽が得意でない先生でも使える教科書がよいと思う。5年、6年では、バイオリニストのメッセージが音楽を通して書いてあり、音楽に親しむ入門的なことを考えると、教育出版がよいと思う。富士山の写真で比べると、教育出版は大きく、教育芸術社は半分の大きさである。教育出版は、オーケストラの大きな写真も子どもが興味を持つと思う。音楽はイメージを膨らませることが大事だと思う。富士山の曲でも、見た目のイメージと曲のイメージでインパクトの強い写真のほうがイメージが膨らんでくる。よい写真を使って教科書が厚くなったという課題はあるが、ボリュームがあるほうが目立ってよいと思う。

以上でございます。

望月委員長
高橋委員

以上の説明ですが、ご意見、ご質問等があればお願いします。

今、説明ありましたが、教育出版は写真が大きくてとてもいい写真が使われているように思うんです。富士山の歌のときでも、大きな写真を見ますとインパクトが強くて、きっとイメージも膨らむのではないかと思います。また、4年生のところでは、最近テレビでやっています京都の祇園祭りが大きな写真になっていまして、そこを開きますと今度は各地の祭りになって、それからおはよしとか民謡を学ぶという流れになっています。大変考えられているのではないかと思います。5年生のときには、大きな見開きのページを使って「ようこそコンサートホールへ」となっていて、オーケストラが紹介されています。大きな写真が効果的に使われていると思いますので、教育出版もいいかなと思います。

以上です。

望月委員長
内田委員

ほかにどうでしょうか。

どちらがいいか、最後まで迷っていますが、教育芸術社は、低学年は楽譜が教育出版よりも多いのかなと思っています。ただ、全学年で合計してみると教育芸術社のほうが多くあって、挿絵とか絵が多いほうがいいのか、あるいは五線譜の楽譜の教材が多いほうがいいのか、この辺が学校の状況によって、子どもたちが音楽の楽譜に対してどういうふうに取り組んでいけるのかということだと思います。各クラスでも違うと思いますが、どっちがいいのかなと迷います。楽譜を読める子が多くなれば、楽譜が多く

望月委員長
教育長

載っているほうがいだろうなと思っています。

ほかにどうでしょうか。

実はこの音楽の教科書、2者なので、私も気になって中身を見ていましたが、先日、教科書の確認の際に、秦野の合唱連盟の方が、どういう教科書を使っているんだらうかということで見られたようです。私も先日、検討委員会の中で話しましたが、編集・執筆者が、大学の方あるいは教員関係の方と違いがあるというものがわかりましたが、初めて見られた方たちは、今こういうのを使っているのということで、相当な関心を持っておられました。

その中で私が少し気になったのは、国歌、「君が代を」をそれぞれ扱っているんですが、教育出版のほうは、日本の国歌だということと、「さざれ石」というのは小さい石の意味になっていることを扱って、教育芸術社のほうは、「君が代」を国歌ということで楽譜だけで扱っているという差があるものですから、そういう意味では、意味が載っているほうが小さい子どもたちにはわかりやすいのかなと思いました。入門ということを考えると、やはり興味を持てるもののほうがいいのかなという印象です。

望月委員長

ほかにどうでしょうか。教育芸術社というのは、題材の狙いと学習目標とか学習内容が非常に明確になっていて、教材同士も学びがつながっているような気がします。教育出版は、子どもが非常に親しみやすい曲が多く取り上げられているような感じがしました。子どもが知っている曲が多いということは、それだけ教師も扱いやすくなるのではないかなと思いました。ちなみにページ数は教育出版のほうが多いですね。

ほかにどうですか。

—特になし—

望月委員長

それでは、なければ、投票に移りたいと思います。投票に移ってよろしいでしょうか。

—異議なし—

望月委員長

じゃ、投票用紙の配付をお願いします。

—投票—

教育指導課長

それでは、開票の結果を報告します。

望月委員長、教育出版。高橋委員長職務代理、教育出版。内田委員、教育芸術社。飯田委員、教育出版。内田教育長、教育出版。音楽につきましては、教育出版4票、教育芸術社1票。

以上でございます。

望月委員長

それでは、開票の結果、教育出版が4票、教育芸術社が1票。よって、小学校音楽につきましては、教育出版に決定いたしました。

た。

続きまして、小学校図工についての審議を行います。事務局、説明をお願いいたします。

教育指導課長

図画工作の発行者は2者になります。

検討委員会での主な意見は次のとおりでございます。

開隆堂は作品名が多く、日本文教出版は制作の仕方の説明が多いと思う。共同制作の作品は飾る場所が難しい。また、その作品の価値づけをするために教師の力が必要になる。日本文教出版は開隆堂に比べると共同作業の題材は少ない。実際の学習では共同作業の作品の価値づけについても考えることが必要である。日本文教出版は道具の扱い方の説明が丁寧である。日本文教出版は、見開きのページ構成により、授業の中で子どもが集中して見ることができる。

以上でございます。

望月委員長

それでは、以上の説明ですが、ご意見、ご質問があればお願いいたします。

飯田委員

図画工作が2者ということで、2つとも甲乙つけがたいのですが、開隆堂がいろいろな素材を使って表現方法が多く記載されているように思われます。そしてまた、目次の横に、材料は何を使うか、こういうのが書き出してあるということは、先生も私たち保護者に対しても本当にありがたいものだと思っております。そういう面で、私は開隆堂がいいかなと思っております。

以上です。

望月委員長

ほかにいかがでしょうか。

高橋委員

どちらの教科書も多様な活動の場が設定されていて、子どもの作品が多く使われています。日本文教出版は、作品と子どもと一緒に写っているものがあって活動がわかりやすいと感じました。

以上です。

望月委員長

ほかにどうでしょうか。

教育長

双方の教科書を見ますと、日本文教出版は1ページ見開きで物事が整理されている。こちらのほうは違うものが入ってくる。報告にもありましたし、検討委員会の委員の意見としてもあったのが、例えば、子どもが授業の中で、隣のページに自分の興味引く題材が載っていたとすると、そちらのほうに目や気持ちが行ってしまって、その授業で取り扱っている部分に集中できなくなる可能性があるという意見もありました。確かにこれを見ますと、私でも、例えば右側に興味のあるものがあればそちらへ行ってしまう場合もあると思いました。そういう意味では、1ページ、

望月委員長

1 ページ見開きで完結するほうが扱いやすいのかなと思っています。

また、これも報告でありましたが、彫刻刀の扱いが4年生で終わって、その先に移ってしまって、彫刻刀を使わない題材になってしまうのもあるということがありました。そういう意味では一貫性も必要なのではないかと思います。

確かに見開きのページの構成というのがありますよね。子どもが集中して見るという利点もあるかもしれません。

ほかにどうですか。

—特になし—

望月委員長

それでは、投票に移りたいと思いますが、投票に移ってもよろしいでしょうか。

—異議なし—

望月委員長

じゃ、投票用紙をお願いします。

—投票—

教育指導課長

では、開票の結果を報告します。

望月委員長、日本文教。高橋委員長職務代理、日本文教。内田委員、日本文教。飯田委員、開隆堂。内田教育長、日本文教。

図画工作につきましては、日本文教出版4票、開隆堂1票。

以上でございます。

望月委員長

それでは、日本文教出版が4票、開隆堂が1票ということで、小学校の図工につきましては、日本文教出版に決定いたしました。

続きまして、小学校の家庭科について審議を行います。説明をお願いいたします。

教育指導課長

家庭科の発行者は2者になります。

検討委員会での主な意見といたしましては、開隆堂は、食育について充実していて、教科書の中に食育マークがページの横に一目でわかるようになっている。また、アレルギーのことが記述されている。東京書籍はイラストが多いという印象である。開隆堂は細かく丁寧に説明が多い。開隆堂は、制作途中でコツとかどうやって仕上げていくのか具体的に記載されている。指導するには過程がわかりやすく示されているほうが説明しやすい。玉結びの方法で比べるとわかりやすい。開隆堂は一目見てわかるようにプロセスが書いてある。東京書籍は完成したものが記載されている。開隆堂は裏表紙にニンジン等の切り方がある。開かなくても見ることができるので調理実習で使いやすい。

以上でございます。

望月委員長

それでは、ご意見等あればお願いします。

検討委員会では、開隆堂の反応がよかったのですが、私は、東京書籍のほうの記述がいいなと思ったところが何か所かありました。東京書籍のほうではイラストが使われていました。その吹き出しの部分が、子どもたちの気づきが生まれるきっかけになるように意図されていると感じました。食べ物を扱う部分では開隆堂とほぼ同じような記述でしたが、東京書籍には卵アレルギーの記載がありませんでした。でも、卵アレルギーとかアレルギー問題というのは、子どもたちが給食を食べる前から、家庭、学校、子どもたち本人との間でよく話し合い、理解していく問題だと考えております。もちろんアレルギーについて子どもたちにも知らせることは必要ですが、給食のときに話してもらえばいいのではないかと私個人としては思っています。

東京書籍で、「めざそう買い物名人」というところでお金の使い方を学ぶところがあります。その記述に、「家族が働いて得た大切な金銭を生かして使うことができるように学びましょう」と記載されています。今いろいろとお金の使い方についてもきちんと学ぶ必要があるので、こういうようなところはとてもいいかなと思います。

それと、環境問題についても、「消費者にできること」ということで、マイバッグ持参、あと、包装の少ないものを選びましょうとか、地産地消、必要な量だけ買いましょうというふうに具体的に学べるようになっております。また、家族の一員として、地域の一員として、自分が家庭や地域でできることを学ぶところでは、「あなたは家庭や地域の宝物です」と書いてあります。これは自己肯定感を高める上で本当に必要なことだと思います。地域の宝ということを書いてくれるような場面はなかなかないので、ぜひこの機会に、子どもたちの自己肯定感を高めるためにもこういうことを教えてほしいなという気持ちがあります。

最後に、持続可能な社会を目指してというところを学んでから中学のほうに接続するようになっております。なかなか捨てがたいような内容がいっぱいあるので、東京書籍のほうがいいなと感じております。

以上です。

ほかにどうでしょうか。

東京書籍、私も、最後の持続可能な社会づくりのまとめ、これはとてもいいなと思いました。ただ、一方、開隆堂は、全体の編集の流れに特色があって、家庭を中心とした展開で始まっていると思っています。家族の団らんとか、ほっとタイムとか。最近の

望月委員長
教育長

いろいろな事象を見ていると、家庭での教育というか、家庭を思う、家庭を大切にする、親子一緒の時間をもっと意識することがとても大事になってきているのではないかという気がしています。そういったところを教材として扱っているほうが私にとってはいいかなと思いました。これは一般的な話であって、現状を踏まえたときに、学校の先生はどっちが使いやすいかというところはあるかと思いますが、私自身は開隆堂のほうがいいのかなと思います。

以上です。

ほかにどうでしょうか。

調査員の意見の中にあつた扱いの難しさという点では、双方ともそう大きな差はないということを聞いていますが、資料数という点では開隆堂が多いだらうと思います。そういう意味では、子どもの興味を引くような資料が多く掲載してあるのは開隆堂なのかなと思いました。生活をよくするという具体的な事例もある。そうした意味では、生活に結びつく手だてというものも大切にしくちやいけないのかなと思います。

一点、私、気になったのは、地元、地元ということ先ほどから言っていますが、開隆堂に「チャレンジコーナー」というのがありまして、その中にみそ料理と雑煮という部分があります。地図でいいますと神奈川県あたりのところに9番の丸がついていますので、これは神奈川県が扱っているかなと思いましたが、残念ながら山梨県の「ほうとう」でした。本当は秦野のお焼きとん漬けあたりをここで扱っていればこちらはいいなと思ったところです。

以上です。

望月委員長

開隆堂というのは、皆さんから出ているように、食育を重視している感じがあります。それから、家庭生活というのを非常に大切にしているように思います。例えば一例を挙げると、「チャレンジコーナー」というのがあって、家庭生活をよりよくするための具体例が例示されていて、いろいろ勉強したこと、学んだことが家庭生活にうまく生かせるように工夫しているのではないか、そんな印象を持ちました。

ほかにどうでしょうか。

—特になし—

望月委員長

それでは、家庭について投票を行います。投票用紙の配付をお願いします。

—投票—

教育指導課長	<p>それでは、開票結果を報告します。</p> <p>望月委員長、開隆堂。高橋委員長職務代理、東京書籍。内田委員、開隆堂。飯田委員、開隆堂。内田教育長、開隆堂。</p> <p>家庭につきましては、開隆堂が4票、東京書籍1票。</p> <p>以上でございます。</p>
望月委員長	<p>それでは、開票の結果、小学校家庭につきましては、開隆堂に決定いたしました。</p> <p>続きまして、小学校保健についてお願いします。事務局からの説明をお願いします。</p>
教育指導課長	<p>保健の発行者は5者になります。</p> <p>検討委員会での主な意見は次のとおりです。</p> <p>東京書籍は、薬物乱用などについてイラストではなく写真がリアルである。インパクトのあるほうがあえていいのかなと思う。光文書院は実用的であると思う。子どもに考えさせるのではなくストレートに書いてある。ある意味、この方法も大事なこともかもしれない。文教社の喫煙・飲酒についての肺の写真や、酒を飲み過ぎる人の肝臓の写真は、予防効果が高そうである。3年・4年生の体の発達の二次性徴の部分で、イラスト、写真といろいろあるが、光文書院は、男女の正面、サイドからの記載があってわかりやすい。他者は正面からである。学研教育みらいは、A4の大きさ、三大成人病のところに死亡原因が円グラフで載せてあり、割合についても細かい数字で出ている。発展的な学習の内容の取り扱いのところで、インターネット犯罪を光文書院、学研教育みらい、東京書籍が扱っている。また、光文書院は食育についても多く取り扱っている。光文書院と学研教育みらいは、インターネットの危険性について扱っている。インターネットの使い方はこれからも必要になってくる。便利さややり方を具体的に教えると同時に、危険も教えることは必要だと思う。光文書院のB5サイズは改めて見ると小さいと感じる。A4サイズは見やすく、書き込むこともできる。内容のバランスを考えると光文書院がよいと思う。発展的な学習の内容の取り扱いが多いのは、光文書院と学研教育みらいである。</p> <p>以上でございます。</p>
望月委員長 教育長	<p>ご意見、ご質問ございますか。</p> <p>5者ですけれども、全体的に見て、報告の中でもありましたが、薬物乱用、喫煙というものの扱いで非常にインパクトがある写真が出ている東京書籍、文教社、これは子どもというよりも大人に見せたいぐらいのことを思いました。</p>

それから、光文書院ですけれども、B5サイズということで、サイズの的にはA4で書き込むことができる部分があると思いますが、扱い方としては、重要な部分を太字で表記する工夫がしてあります。そうした意味では、子どもがわかりやすいのかなと思いました。

望月委員長

それと、食育に関する記述が多いなという印象です。

今の学習指導要領では、言語活動の充実ということが大きな柱になっています。しかし、言語活動の充実というところが、教科は国語でという捉え方に一般的にはなっていますが、そうではなくて、指導要領でも、言語活動の充実というものは大切な内容であるということを取り上げていて、体育の部分でも言語活動の充実というものは大事なものであります。私も大学で体育の先生にいろいろ聞きますが、やはりどの先生方も言語活動の充実というものに力を入れています。ですから、言語活動の充実というのは、保健体育の5者はどれも充実した内容として取り上げられているという印象を持ちました。

例えば発展的な学習の内容の取り扱いという点から見ると、光文書院とか学研教育みらいあたりがいいかなと思っています。

それから、思春期における体の変化については、光文書院が体を前と横から写真で掲載している。この辺は非常に捉えやすいのかなという感じもしています。

内田委員

ほかにいかがでしょうか。

委員長のお話にもありましたけれども、体の発達というところを見ると、学研、大日本図書、光文書院、ここは、男女の違いから、さらに発展させて妊娠・出産期までしっかり取り上げている。これは大事なのではないかと思います。

それから、心の不安、これはどの教科書も相談窓口とかいろいろ記載もあって、こういうのは今、とても大事なかなと思った次第です。発展的な学習のところでは、特に光文書院さんがストレスというものを取り上げているところはいいのではないかなと思った次第です。

望月委員長

以上です。

ほかにいかがでしょうか。

望月委員長

—特になし—

なければ投票に移りたいと思います。投票していいですか。

望月委員長

—異議なし—

それでは、保健について投票を行います。用紙の配付をお願いします。

教育指導課長	<p>—投票—</p> <p>それでは、開票の結果を報告します。</p> <p>望月委員長、光文書院。高橋委員長職務代理、光文書院。内田委員、光文書院。飯田委員、光文書院。内田教育長、光文書院。</p> <p>保健につきましては、光文書院5票。</p> <p>以上です。</p>
望月委員長	<p>それでは、開票の結果、小学校保健につきましては、光文書院が満票、5票ということで、光文書院に決定いたしました。</p> <p>これまで各種目別に審議をいただきましてありがとうございました。これで全てを終了いたしました。11種目につきましてはの採択を終了いたしました。事務局のほうで一覧表をつくっていただきまして、それを配付した上で、最終的には採決したいと思います。</p> <p>事務局のほうで議案としての資料を作成する時間が必要ですので、休憩いたします。</p>
望月委員長	<p>—休憩—</p> <p>再開いたします。</p>
教育指導課長	<p>議案第8号「平成27年度に使用する小学校の教科用図書の採択について」、ただいまご審議いただいたものを一覧表にまとめました。説明をお願いいたします。</p> <p>それでは、ご審議いただいた結果を議案8号として報告いたします。</p> <p>平成27年度に使用する小学校の教科用図書について、種目、発行者の順でご報告します。</p>
望月委員長	<p>国語（国語）、東京書籍。国語（書写）、東京書籍。社会、教育出版。社会（地図）、帝国書院。算数、啓林館。理科、啓林館。生活、東京書籍。音楽、教育出版。図画工作、日本文教出版。家庭、開隆堂。保健、光文書院。</p> <p>以上でございます。</p> <p>それでは、採決に移りたいと思います。</p>
望月委員長	<p>議案第8号「平成27年度に使用する小学校の教科用図書の採択について」、原案のとおり決することでご異議ございませんか。</p> <p>—異議なし—</p> <p>よって、議案第8号は原案のとおり可決されました。</p> <p>続きまして、議案第9号「平成27年度に使用する中学校の教科用図書の採択について」、提案理由をお願いいたします。</p>
教育指導課長	<p>平成27年度に使用する中学校の教科用図書についてお願いします。</p>

中学校用教科用図書につきましては、無償措置法施行令第14条により、平成24年度から27年度まで4年間は継続して同一の教科書を採択しなければならないこととされております。

よって、27年度の中学校教科書は、今年度同様に次のように報告します。

国語、東京書籍。書写、東京書籍。社会（地理的分野）、帝国書院。社会（歴史的分野）、清水書院。社会（公民的分野）、東京書籍。社会（地図）、帝国書院。数学、啓林館。理科、啓林館。音楽（一般）、教育出版。音楽（器楽・合奏）、教育芸術社。美術、日本文教出版。保健体育、学研教育みらい。技術家庭（技術分野）、東京書籍。技術家庭（家庭分野）、東京書籍。外国語（英語）、三省堂。

以上でございます。

望月委員長

ただいまの提案につきまして審議に入ります。

質問、ご意見ございますか。今、説明がありましたように、中学校は、24年から27年、4年間同じ教科書を使わなければいけないということですので、中学校の採択は来年になるわけです。このことについては質問、ご意見、よろしいですね。

—特になし—

望月委員長

それでは、採決に移ります。

議案第9号「平成27年度に使用する中学校の教科用図書の採択について」は、原案のとおり可決することよろしいでしょうか。

—異議なし—

望月委員長

よって、議案第9号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第10号「平成27年度に使用する学校教育法附則第9条による教科用図書の採択について」、提案理由の説明をお願いいたします。

教育指導課長

平成27年度附則第9条本についてですが、ほかの教科用図書と大きく性格が異なるものがございます。ここで説明させていただく教科書は、主に、特別支援学校、養護学校、及び特別支援学級、障害児学級で学習をしている児童生徒が使用するものであります。

児童生徒にとっては、知的発達のおくれや障害の状況によって、在籍する学年の教科書はその児童生徒の日ごろの学習活動に沿わない場合がございます。こうした状況の児童生徒に対して、特別に編集されたものや一般図書を提供して、その児童生徒の状況に合わせた教科用図書の使用を認めるものです。

手続的には、小中学校の特別支援学級の担任が保護者と話し合い、必要があれば、保護者の了解を得て児童生徒の実態とともに必要な図書を選定し、教育委員会に書類で報告します。

これを受けて、選定した図書が本当にその児童生徒の教科用図書としてふさわしいかどうか、教育委員会の指導主事が学校を訪問し、児童生徒の実態を確認し、詳細な資料を作成いたします。

この資料をもちまして教育委員会会議で承認された場合、児童生徒が来年度使用できる教科用図書に認定され、来年4月に供給されることになります。

平成27年度は、小学校13人、中学校20人から申請があります。

以上です。

望月委員長

それでは、審議に入ります。ご質問、ご意見があればお願いします。何かありませんか。

今、説明で、小学校が13名、中学校がAからT、20名。これは、秦野市の小学校13校と中学校9校全部の学校がここにある生徒に該当しているかどうか、この辺についてはいかがでしょうか。

教育指導課長

小学校につきまして13名、これは6校です。6校・13名ということです。同じく、中学校20名、これは3校・20名ということです。

以上です。

望月委員長

ほかにいかがでしょうか。

—特になし—

望月委員長

それでは、採決に移りたいと思いますが、議案第10号「平成27年度に使用する学校教育法附則第9条による教科用図書の採択について」は、原案のとおり可決することでご異議ございませんか。

—異議なし—

望月委員長

ありがとうございます。よって、議案第10号は原案のとおり可決されました。

そのほか、何かございます。

—特になし—

望月委員長

それでは、これをもちまして臨時教育委員会会議を終了いたします。

なお、通常ですとその他などあるんですが、きょうは臨時で教科書の関係だけということで、これで終わります。

どうもご苦労さまでした。